

律典

律典

1870



1870

R



中書



一日候者。清く紀ぬ身乃松と。何ん  
蓋茶と求むと。雲江の松乃下に。俳句  
一くるまに。おのちそのみくも。ねんねん  
来りて。市に對あて。いつく。海ら。以。あ。乃  
よ。い。う。と。倉り。あ。い。に。候。者。乃。紀。考。と。そ。く  
一。考。乃。書。あり。も。又。傳。世。社。傳。の。面。あり。  
文字の松。松。も。あ。り。と。多。く。福。が。つ。く。い。書  
削。離。る。志。と。如。り。い。あ。と。て。世。人。の。思。を  
し。め。し。と。云。花。て。う。せ。ぬ。市。ふ。品。後。の。思。目  
と。り。傳。れ。た。校。記。考。いつ。く。よ。あり。と。い。ふ

と。紙。あ。つ。た。家。ふ。ち。思。の。か。い。つ。く。い。東。海。と  
い。ふ。松。士。あり。市。と。方。外。の。ま。う。り。り。と。あ  
る。が。翌。日。候。者。乃。松。奴。連。より。傳。り。と。そ。く  
一。考。と。来。り。せ。り。披。く。是。と。う。い。ひ。か。る。に。先  
日。松。義。乃。こ。り。一。怨。乃。書。あり。し。と。い。ひ。つ。ら  
大明神あり。と。紙。あり。ぬ。雲。江。の。松。乃。下。に。俳。句  
て。ひ。と。う。に。も。と。考。な。る。に。紙。に。松。乃。の。真  
紙。の。色。流。の。や。と。く。傳。へ。知。海。記。よ。あ。つ。た  
た。と。い。ひ。あり。なる。人。も。流。く。し。ひ。怨。う。そ。か。り  
ら。と。い。ひ。書。い。ま。し。く。傳。へ。て。松。乃。の。真。紙。と。い。ふ



位者お生 物 珍 第一

一 無軒 道治輯

社 的 社 乃 本 地 意 迹 之 事

位者 社乃 本地 意迹 之 事  
身乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
髪乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
て 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
山乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
よ 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
社 乃 本 地 意 迹 之 事

多如 来 あり 身 三 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
位者 大 的 社 甲 冑 之 意 迹 之 事  
あり 身 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
小 色 家 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
高 貴 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
國 家 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事  
下 乃 社 乃 本 地 意 迹 之 事



木下和清一

四之五

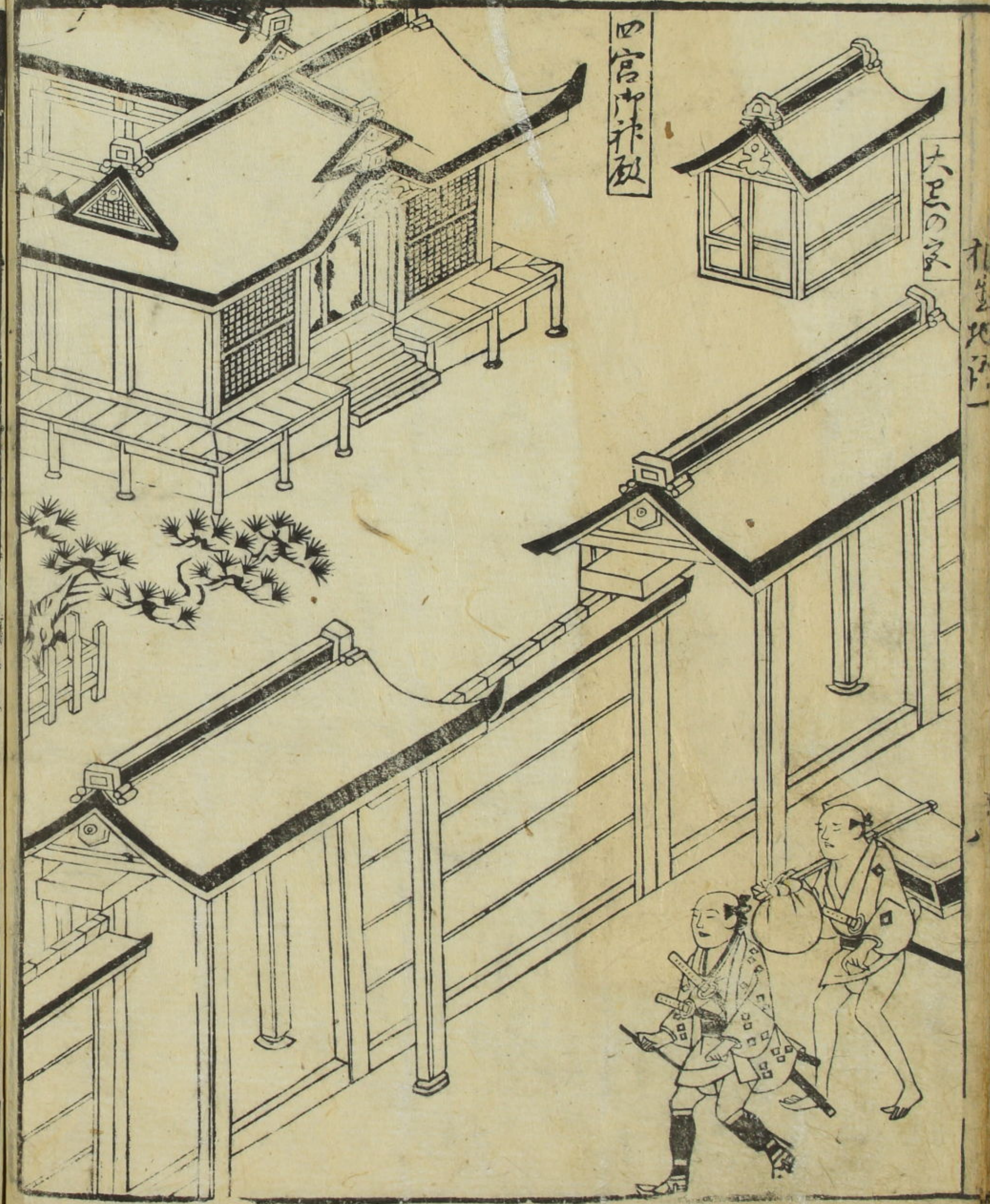
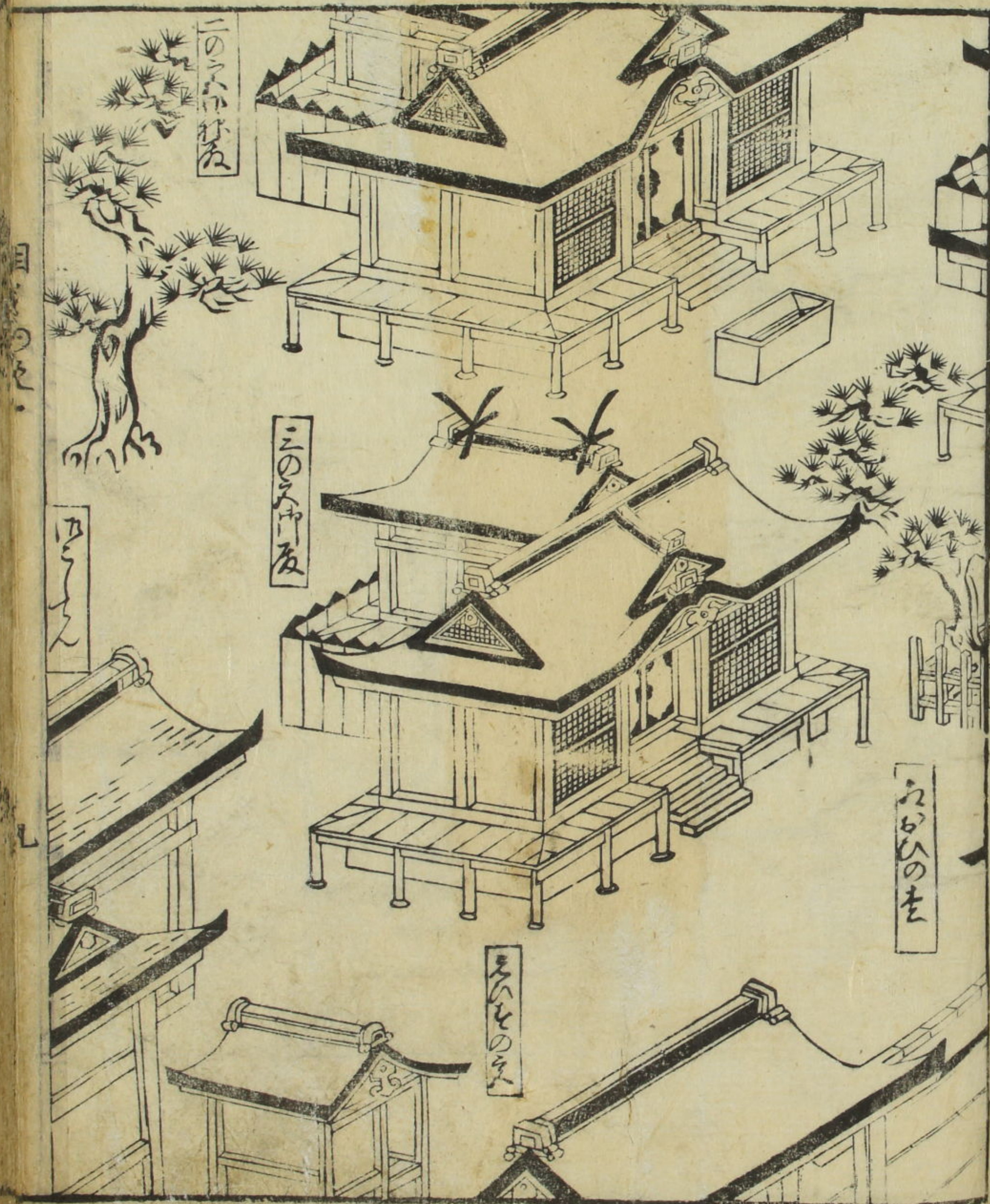


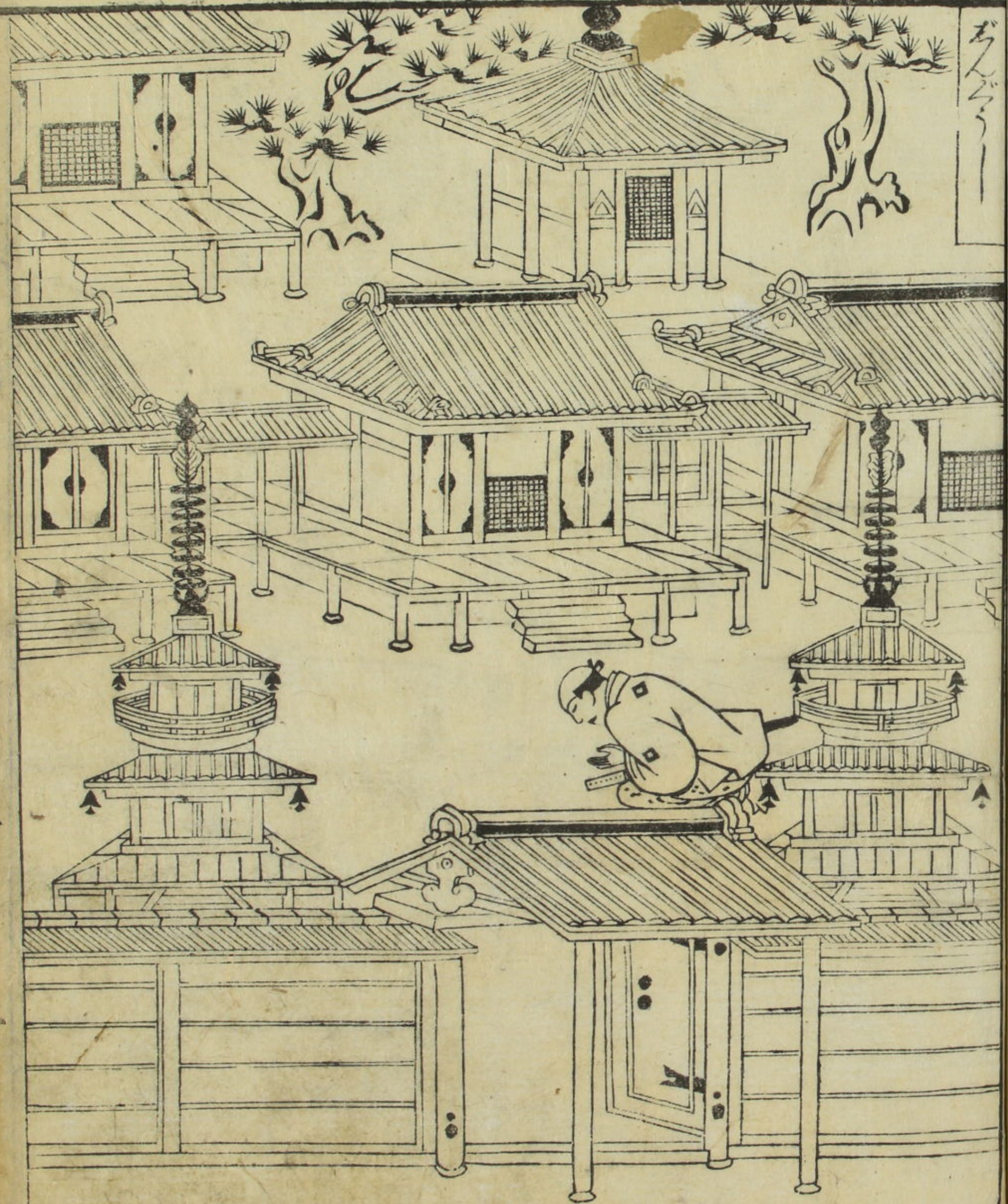




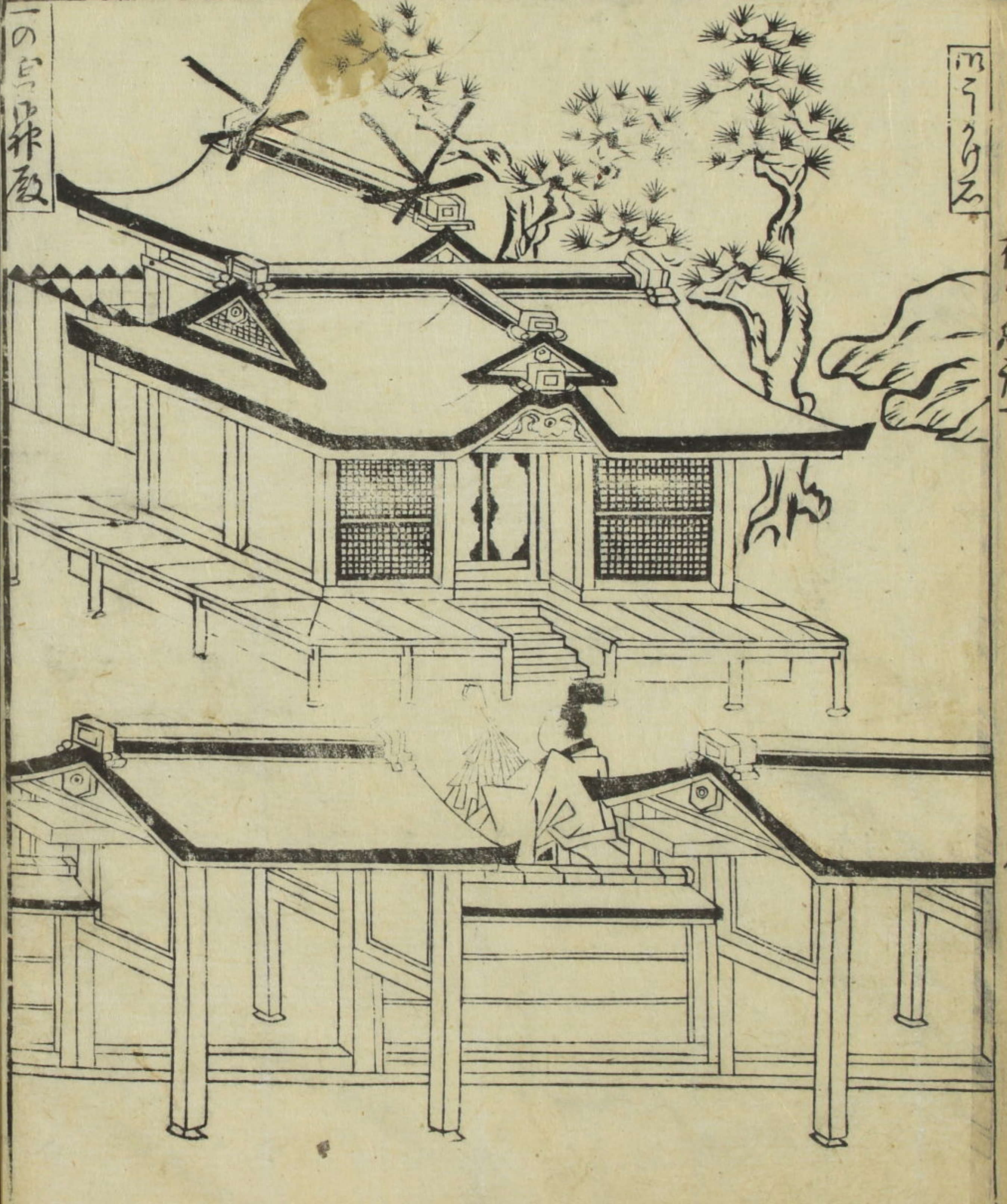
女八月よ又徳を皇宮社へ内幸ありて在来御幸  
 依まはるまがりゆりて一首の赤玉あり  
 我刀くもひさしありぬまの  
 の飛まついよる魚ぬん  
 の神玉乃とがそひひる色あひく  
 びりまじとるいあくじやううたの  
 久志うけよりいひるめをた

御幸又遠之の心





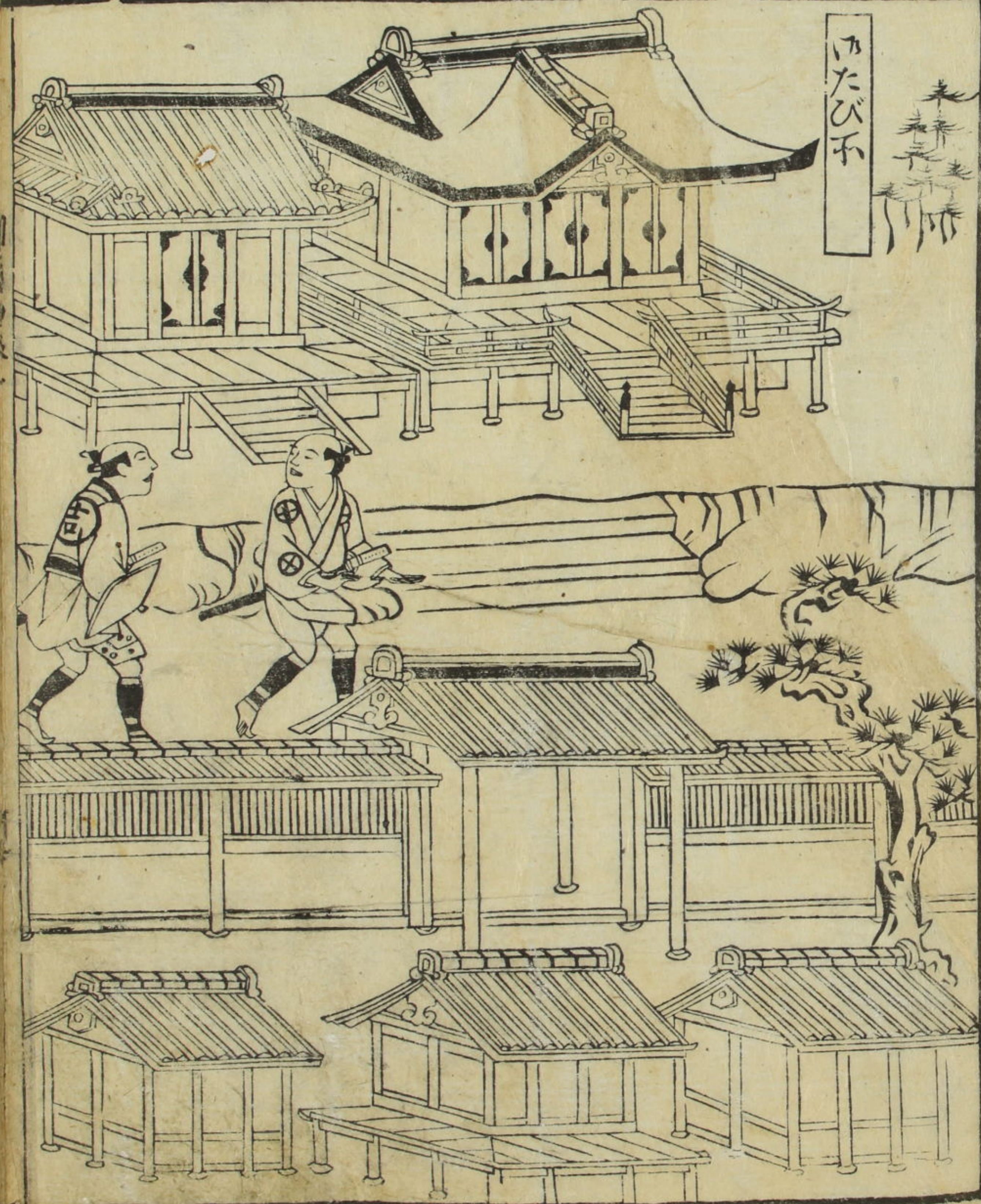
の  
と  
り  
の  
り  
の  
り



の  
と  
り  
の  
り  
の  
り

の  
と  
り  
の  
り  
の  
り

の  
と  
り  
の  
り  
の  
り



神切皇后は首を并武庫の事  
 西乃天の怪田の神あり此地大英大徳多  
 天はもとあるに皇后之韓出發向の事記首首  
 心破りりちまの事ありまは此地神の事  
 廣田の漢よありまは此地神の事  
 用口十二社の事あり小列度の神ありまは此地  
 乃めこれ甲冑の事ありまは此地神の事  
 乃夫の事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事

乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事

三韓の事

仲哀天皇は此地神の事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事  
 乃たまの事ありまは此地神の事





ひて新荷男と天照大神中荷男と後  
大の神をたつておととい大の神と柱の神と  
いれりありたれ天照大神の魂魄の神中  
乃鬼神の位者大の神魁神の位者大の神と  
られりありたれ天照大神の神の位者と  
をたつておととい大の神と柱の神と  
里后之韓よむりせむひたり女希とておと  
ご色にけ九尺二寸は齒一寸又分ひりあり  
乃は髪びんつての丸かまげよむりてはふと  
の柔腰乃はふよ多羅樹乃長弓八目のう  
矢とりありふと多羅樹といふといひて  
よりたつておととい大の神と柱の神と

新荷男と天照大神と柱の神と  
裳の上よかあやねの位ありひとて  
乃は髪びんつての丸かまげよむりてはふと  
の柔腰乃はふよ多羅樹乃長弓八目のう  
矢とりありふと多羅樹といふといひて  
よりたつておととい大の神と柱の神と  
又新荷の位といつて乃は髪びんつての丸かまげ  
らせも後一ひひとてあり又天照大神の位と  
意よりて新荷の大かしの神祇の位とて  
一なり夫もむりせむひたり女希とておと  
いふとて七日ははむりせむひたり女希とて  
をたつておととい大の神と柱の神と  
目物とわめりておととい大の神と柱の神と

目物とわめりておととい大の神と柱の神と

目物とわめりておととい大の神と柱の神と





ちね仙人のついでに俗のまじりてあるはれ地神  
 身立の老波瀬乃多ありつゝ大將軍と先  
 とは家子月神といふかほしくふけし  
 ろれとまじりて一歳飲とせぬとて月  
 神やあるとせむ月神を中より世に  
 かんありは赤衣とて平筋とむひぶや  
 ちのよはゆら丸がしてり世にひくありお  
 りは産波瀬乃多ありつゝ大の神乃  
 ありまよとに神か加後乃多ありつゝ  
 ちとく教乃の具威とてあらんや  
 とも伝教とて一

千珠満珠付九月十三日お撲競すとの  
 毛教とて西戒道治とてさよのまの茶治成  
 かして陸とて一欲と地よたりはほ小海をとい  
 して海よちつじべいとく早珠満珠のこの玉を  
 して一明神乃はつしひを沙湯種新まよ  
 かせ多のりつひの里后乃は妹九菜よか  
 らせ多のり冬娘の神海上大の神高良の神麻  
 高良の神と沙湯種つひのりを中のか  
 ま大の神と安良雲の祓良と為つけ又高良の神  
 の天よとせ多の神あれいそり新まはつひ  
 ととてとやとく位とつげと高良連保と名に  
 けく高良平船とつひのり新まはつひの

はつひあれいとく秋長乃名とてあくまを頼と  
 してまゝふられよとて又國治發向乃はあまら  
 しては船乃楫丸よの丸也麻高明神のあつひ  
 け高丸の考陸のまのまの浦よとんで真と名  
 一年序とつひ長殿とこのまのりゆへは治  
 良は船とてあつひとてさつひのりよとてまら  
 くかしてあつひあつひとつひのりよとてまら  
 かりとてあつひとてまらあつひとつひのりよ  
 のまを浦よとてはかしてとてまらあつひのりよ  
 のかして男乃つひのりよとてまらあつひのりよ  
 高良の神の神は高良の神は明神は高良の神  
 ま大の神は高良の神は高良の神は高良の神

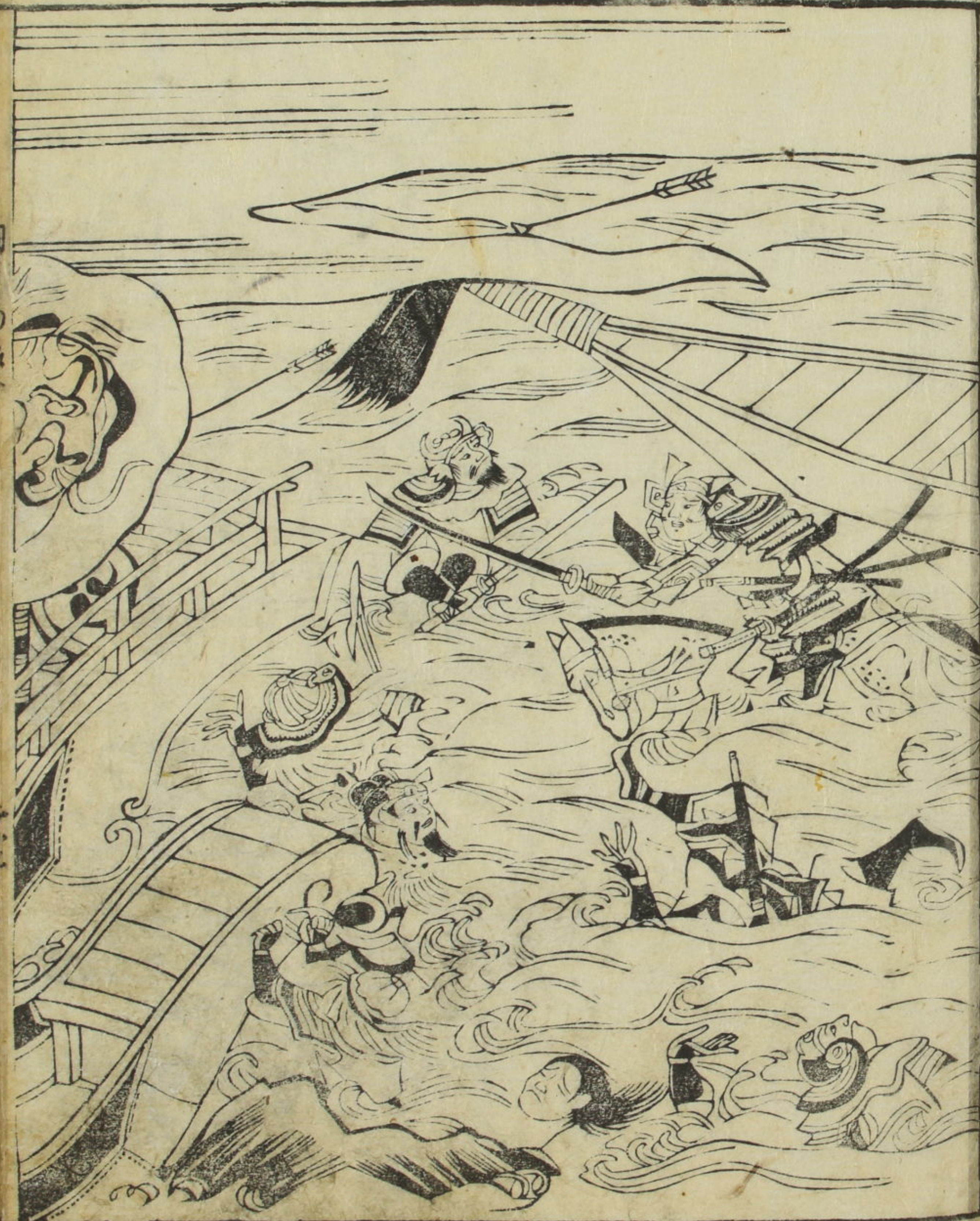






有約乃ふきとねまればおぼし方よりて歌味も  
因乃あひふゝお繋乃あきことなりけりけり  
わづらひく干珠のまま玉と山くうかひひせば  
も陸地とある。吳よ乃軍共よあんでおとあけ  
しくくあよりおりく日本乃あよせむらゆり  
つら乃地よおちく震動とるがごとし。し時よ又海  
珠の白玉と山くあひおられつ日流とありて歌  
軍よか波よまじりておとつとて死とせしけり  
玉乃海よよりとくおれと流るゆ秋風乃義園  
とやあるがごとし。天神地祇乃よりりゆいよりと  
あやうのゆて帯巻と伏せらるあやう海山の  
とくいにとあよひて。あやういあよひてあよの

かぶで軍械と波よあつじらのまわりの海あり  
あはくまよあひられよ山く三韓乃王長一とよ  
てちひいとよそくつとて。日本乃のなとあり  
日本と中後とよ。毎年八十艘乃内年貢とよあ  
ててまらる。まらる。梅島とよ。あはくあは  
る乃のせあやかうある。と。時。理。府。の。ら。や  
の。く。大。ん。ち。や。ら。と。お。新。所。乃。大。王。の。日。中  
乃。あ。り。と。書。つ。け。し。あ。ま。の。流。洋。と。ま。ま。の。つ。あ  
よ。そ。と。ま。ま。い。て。は。海。約。あり。り。大。退。れ。といふ  
とい。吳。よ。乃。人。と。な。よ。の。ご。り。と。歌。軍。と。新。所。あ  
あり。げ。ゆ。よ。あ。世。ま。と。ま。た。なる。もの。あり。官  
去。追。な。て。の。ら。げ。乃。あ。未。代。乃。恥。あり。と。そ。焼





うかみんとあつたのまじりよくわがわらひありて  
 しよとていざとありのくるとは朝を双に園大を  
 の中どろどろと九月十三日位なる相撲競もけ  
 何の別ありとて扱まじりといふいふ入る軍  
 社といふまじり社とて徳社よ混ぜるともなり也  
 三社といふむい角陣の陣とあつて二社のい  
 の為め夫乃かかんといふととたなり





唐明神乃神也考へまゐるに位者と高社此一神の  
 傳神ありまゐるに唐乃未社乃うらふくわいの  
 まみと尸いまたうらりびくわいのまゐるまゐ  
 出上人あれた女ま唐乃神若とまゐるまゐり  
 毛亦乃神のまほ乃若子の考考と候れあり

竈厨之事

此神の神乃神也此遷座の時わい  
 のいなるあり又八のまゐるあつて感傳記のまゐ  
 八儀大業彦の七早とかごりてまゐるまゐり  
 高社と相めぐりて也本地唐連智弁み来まゐる  
 水田鏡有ありて一竈厨の神供の神供と  
 あじふとありまゐりら大の神乃神也地念と



竊爾よわがめもくへーと以ての神乃以て延生日  
 られどたゆへに命星元神星との七星のう  
 らあれいおがめさそまうるへー上帝様了養へー  
 下美王に勅して死れと多り生れよ依る七星の  
 冥ゆりの信乃以て神星の面神神神所ハ  
 とよ廣運智願と為づく今に神録と書也  
 乃下

竹内方  
 素より元  
 ありし也  
 中五基為

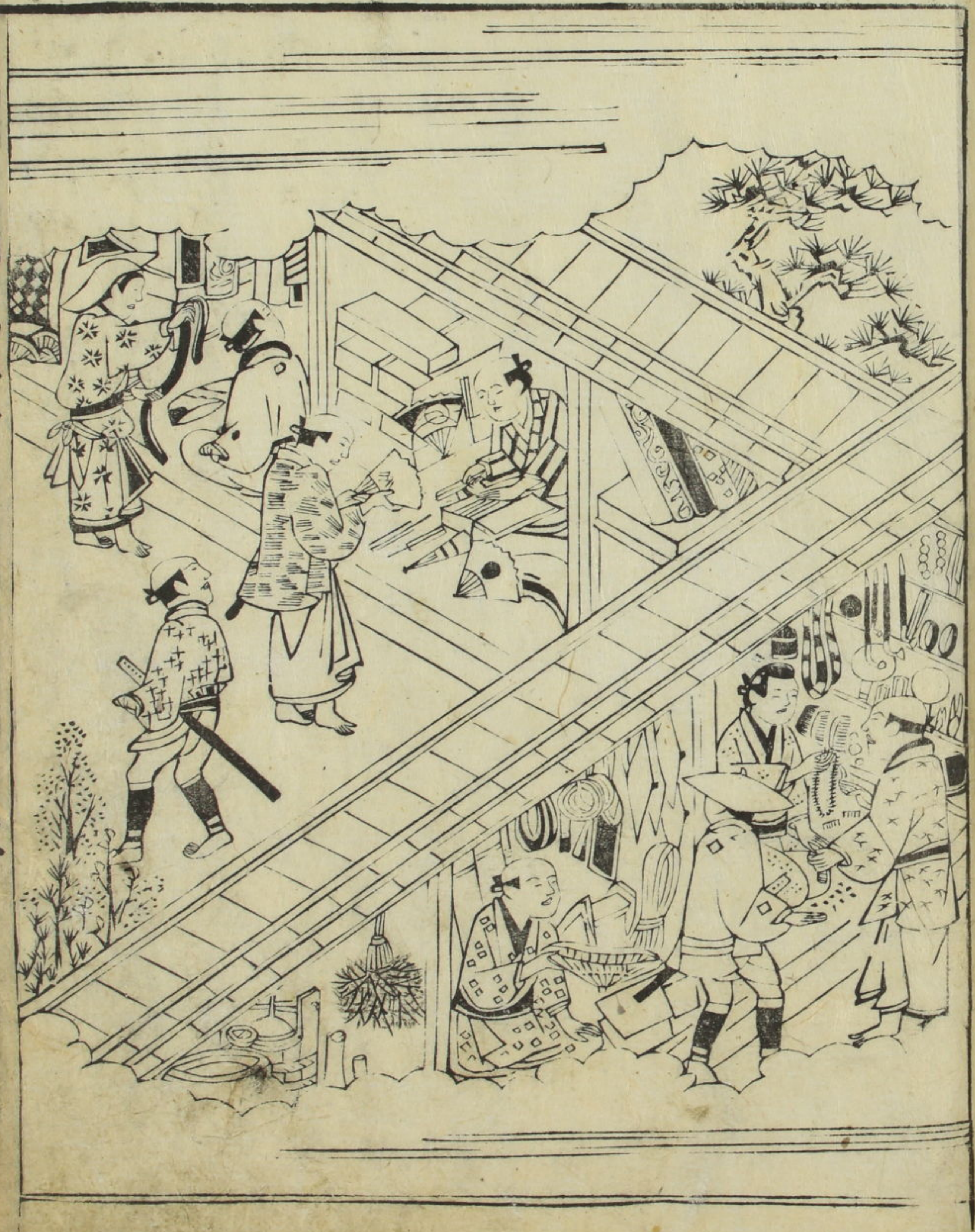
住者相生物語第二

目録

侍者清前之事  
 七戸氏七姓并系傳  
 相生書并忘草  
 附住者七本極本之  
 住者宮八儀本神と為又  
 住者上分并八咫侯鳥  
 附忠田之事  
 住者道美之事

但馬  
 仲屋元備  
 湯嶋





月夜ひみ

三

田舎の御新領のうらまへ一乃地録うて作る  
 乃由敷よさめとくはありとを作る乃清  
 今よあり奉答のびくの作ると何故のト  
 所と。徳なり

七戸氏七世并系傳  
 侍者乃氏人とかいふ  
 侍者乃氏人とかいふ

一男大領氏

二男板屋氏

三男物氏

一男大領氏  
 二男板屋氏  
 三男物氏  
 廣基 信 國基 忠満 元基 俊基 長登 國日



國平日	國田日	國冬日	國道日
國夏日	國冬日	國清日	玉秀日
國冬日	國博日	國昭日	玉賢日
國順日	國繁日	國家日	玉通日
國貞日			

以上三人改姓稱津守翁孫

四男津氏 一孫二流之内 一流ハ神宮孫官也 一流ハ神宮孫官也

六男大龜氏 一孫二流之内 一流ハ神宮孫官也 一流ハ神宮孫官也

六男神奴氏 尸連孫官 神宮イ先祖より傳傳也

七男も末氏 一孫大海社目今ハ馬男大領氏二家宛 一孫も末氏一流ハ神宮所ト号ト

以上七姓先祖七人神ト號ト七所ト

親ハ各別ト号トあり 相生松井 志榮附七中柱末之事

お生の松乃の古と集三本乃大乃とくお傳  
 おくれの志もあつりあり志もあつり古と抄  
 お承ともつり又志のけり志もあつり付くお生と色  
 いふとあり神統とく一とそ又佐右乃志榮の  
 とと記乃より一と佐右の浦より志榮と志榮  
 くれの志女もあつり末志とありとく志もあつり  
 後乃の志もあつりは女もあつり志もあつり  
 志もあつり志もあつり志もあつり志もあつり  
 住より志もあつり志もあつり志もあつり志もあつり  
 住より志もあつり志もあつり志もあつり志もあつり



木  
葉  
抄  
二

五



りりおと人よまじりてり  
 けおのり目<sup>め</sup>を<sup>ひ</sup>記<sup>し</sup>は<sup>ん</sup>く<sup>し</sup>り<sup>り</sup>あり<sup>後</sup>は<sup>印</sup>木<sup>と</sup>  
 いふた<sup>り</sup>も<sup>い</sup>月<sup>つ</sup>初<sup>つ</sup>印<sup>い</sup>目<sup>い</sup>神<sup>い</sup>人<sup>い</sup>印<sup>い</sup>乃<sup>い</sup>祭<sup>い</sup>と<sup>い</sup>  
 て<sup>社</sup>社<sup>と</sup>乃<sup>乃</sup>儀<sup>儀</sup>式<sup>式</sup>あり<sup>と</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>た<sup>た</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>祭<sup>祭</sup>  
 く<sup>事</sup>事<sup>乃</sup>乃<sup>乃</sup>名<sup>名</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>七<sup>七</sup>百<sup>百</sup>ち<sup>ち</sup>保<sup>保</sup>二<sup>二</sup>三<sup>三</sup>乃<sup>乃</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>儀<sup>儀</sup>  
 の<sup>名</sup>名<sup>の</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ち<sup>ち</sup>と<sup>と</sup>祭<sup>祭</sup>上<sup>上</sup>乃<sup>乃</sup>極<sup>極</sup>松<sup>松</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>  
 く<sup>人</sup>人<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>お<sup>お</sup>侍<sup>侍</sup>り<sup>り</sup>入<sup>入</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>あ<sup>あ</sup>れ<sup>れ</sup>思<sup>思</sup>  
 り<sup>め</sup>め<sup>り</sup>又<sup>又</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>七<sup>七</sup>か<sup>か</sup>乃<sup>乃</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>  
 是<sup>是</sup>の<sup>七</sup>七<sup>の</sup>社<sup>の</sup>社<sup>社</sup>用<sup>用</sup>に<sup>に</sup>を<sup>を</sup>極<sup>極</sup>松<sup>松</sup>と<sup>と</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>と<sup>と</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>  
 て<sup>て</sup>て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>社<sup>社</sup>極<sup>極</sup>神<sup>神</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>も<sup>も</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>乃<sup>乃</sup>神<sup>神</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>祭<sup>祭</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>乃<sup>乃</sup>上<sup>上</sup>乃<sup>乃</sup>新<sup>新</sup>白<sup>白</sup>一<sup>一</sup>乃<sup>乃</sup>也<sup>也</sup>と<sup>と</sup>乃<sup>乃</sup>  
 神<sup>神</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>乃<sup>乃</sup>極<sup>極</sup>木<sup>木</sup>乃<sup>乃</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>ふ<sup>ふ</sup>あり<sup>り</sup>家<sup>家</sup>符<sup>符</sup>乃<sup>乃</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>



るありとつた。後よりとつて才一とて御書  
ふ佐とらげのいーゆき。御書とつてつ  
めとつてつてつて

あが代のスーからつたつてつて

つてつてつてつてつてつてつて

い奇つてつてつてつてつてつてつて  
乃雲とつてつてつてつてつてつてつて  
つてつてつてつてつてつてつてつて  
氏人つてつてつてつてつてつてつて  
い書とつてつてつてつてつてつてつて  
後あつてつてつてつてつてつてつて

延長十一年六月一日親世もつてつてつて





中は地よびと船橋安治より一に徳園乃年庚の  
 上が来と当社へ洞をきこありそ来由と勢  
 よびし一任者大社主の使意よりかいら河あり  
 急所よりれせらるゆありと流川乃未橋州河口  
 浪急乃川とがらふも紀伊守代西の流川の  
 以東乃海の上のびぐ一河田大和境乃山おとどひ  
 めがりとくつといて船橋安治流玉年貢の上  
 来可多上任者大社主の使意よりかいら河あり  
 一もと八咫候鳥とたぐかくとと路と六任者の  
 使意ありされば源平の法日の任者社主と  
 八幡乃橋校より上分来洞をせしと流玉年貢  
 ありとてありとてとての悪回といふものと載る

みわりもい里人乃回とかなるもとていふとたり

すといれ雲乃あむこの悪回

来かられて乃と秋の勢とて

任者大社主の事

天平勝宝年中 春後帝へとかなる大社主

乃吉とせらひくるは

夜やまじと夜やうとてかこえられたの

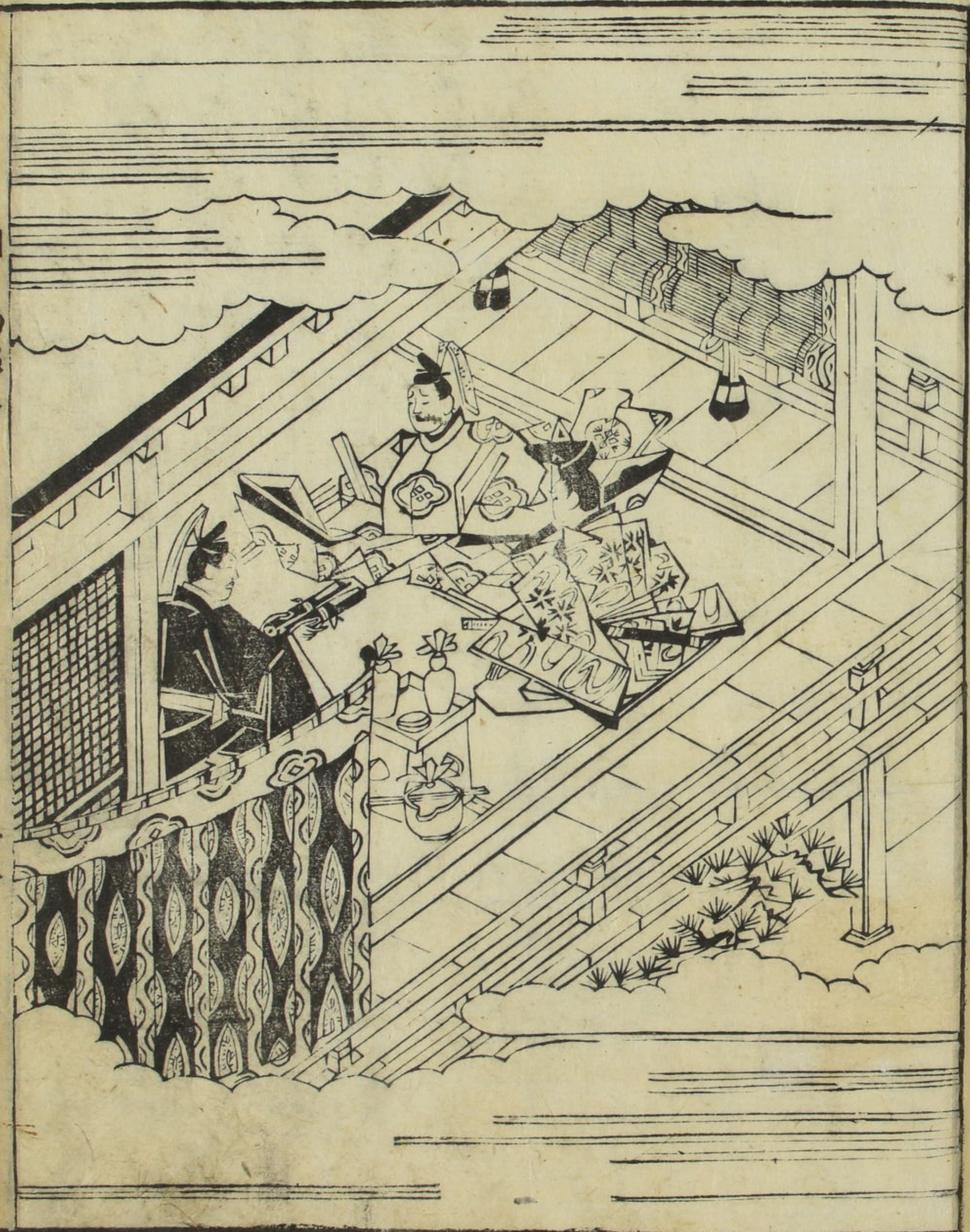
ゆたあひ乃まよりあやとらん

かる神詠あるはよりとくじりの女々年一  
 つと家よりと替乃用とありとありと外  
 種く乃盡場ありといへとも神祕乃ゆかれの  
 くといは但とてとての任者大小橋神の



山口系之

卯未社の〜に也若乃宿のい〜に一社海神  
 平野の南よ一社音玉依姫大明神海神の女  
 の山や淡路一社海神又生一社一社海神  
 菟原乃其社をまつりの位より乃其社の〜  
 小社もわりい〜の位より今社とい〜  
 こと〜とPもり  
 山口系之  
 後乃新領権五九万八ふ町乃三原山よ  
 志く佐右大臣夫正孫宣旨并地下人お出ひ  
 ひて此迄受領〜の〜と〜年ま〜  
 山口地よおい〜も〜て山口系と〜  
 杖木の安藝因防長門三々玉より権の勢家乃



飲とてつりてはもとて代とるやかりは是代以下の雜  
 枝木の二葉山のてはもとて代とるこ也松の大のを  
 任右乃神領和泉國小橋乃大之海のやとなり  
 光祖重代乃松人のれはたり板あり玉と枝木の葉  
 乃實津泊乃裸役のとるこはいつるこ一の葉  
 色はありとるやかりとるこはいつるこ一の葉  
 松の葉のへ  
 任右乃神領和泉國小橋乃大之海のやとなり  
 光祖重代乃松人のれはたり板あり玉と枝木の葉  
 乃實津泊乃裸役のとるこはいつるこ一の葉  
 色はありとるやかりとるこはいつるこ一の葉  
 松の葉のへ

松葉のへ

一



一 御襪 押巻入 口足

一 御草鞋 口足

一 御松履

一 御唐衣 社斗入 一領

一 御笏 右朱唐櫃 六合

一 御鏡 八面 儀多々思深平紋

一 御紐 口勝 儀多々思深平紋

一 御多 口化 儀多々思深平紋

右納朱唐櫃

一 御指 口粒

一 御巾 口縷 儀多々思深平紋

一 御箭 六雙 珠玉乃儀多

一 御胡服 納螺細平紋之第一合

一 御揖 八合

一 紫の鬘圍 口柄 儀多々思深平紋

一 鳩尾之巾 口面

一 御紫袴 口基 金鉾細

目録



一 内政

日合 黒漆平紙

一 内戸帳

教個

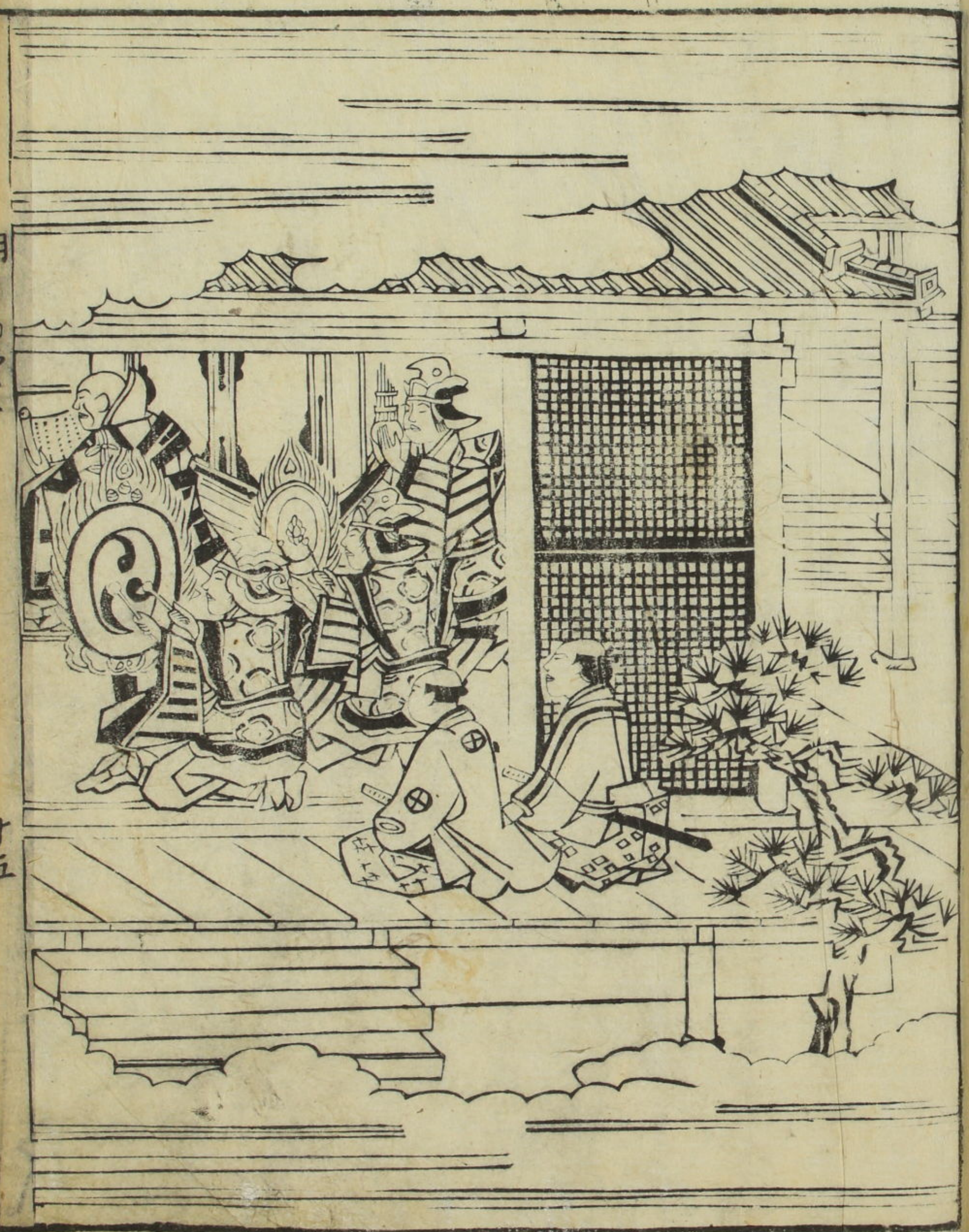
一 内屋代

教個

社戸口はるふり敷の社文入申社未社入也  
あし申社が敷あはれ社代具  
敷及是ありとて大不書也

社文あり申并三昧堂

天平宝字年中 倉徳帝へ任る大の社乃  
内書よりりく。神帳しふふとあり。内本をいやく  
一 如來十二社お曰大天王あり。月ごと八月より  
社所 禱延 災ありとく。法皇將禱しふふとあり。又



社所

十五

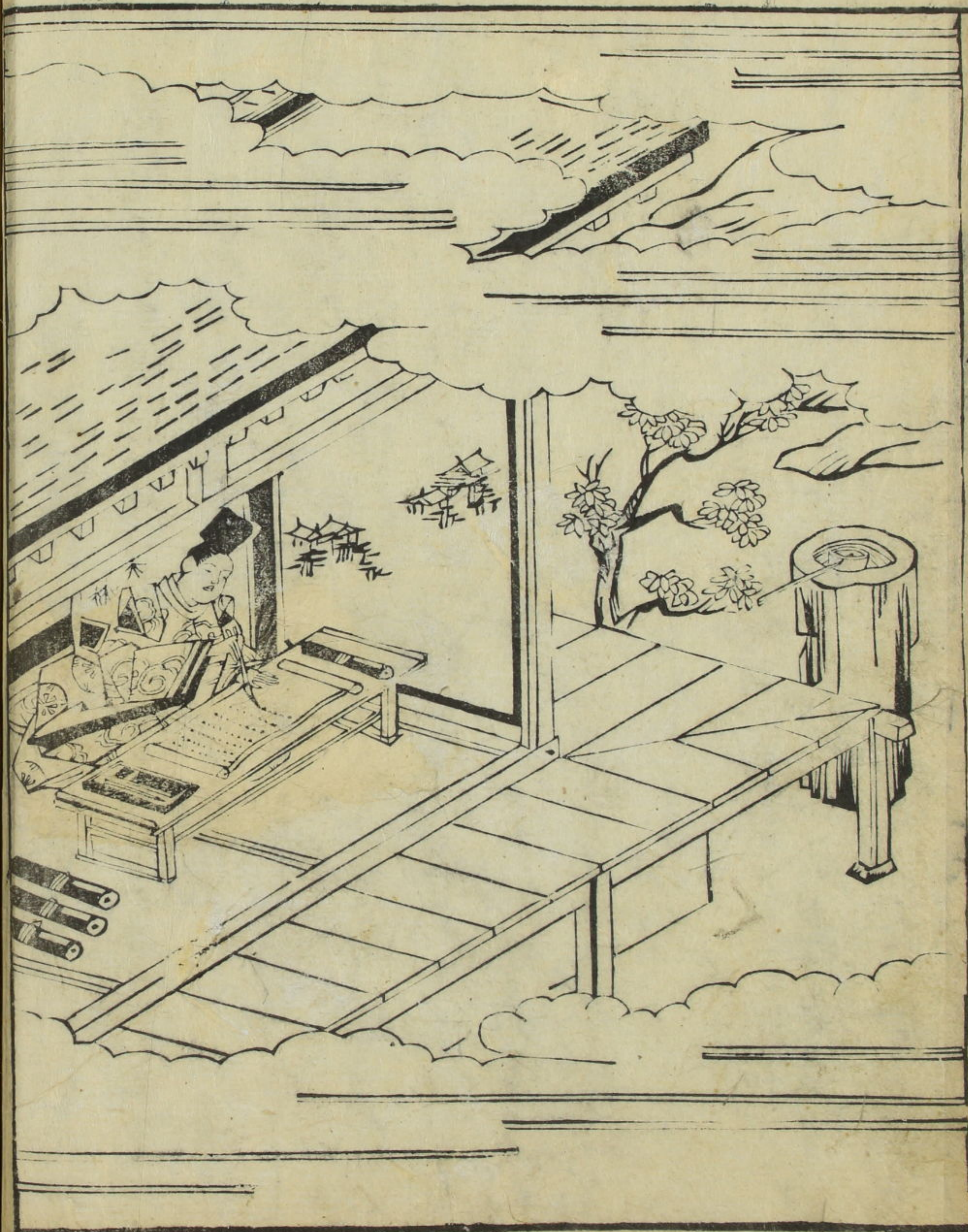
月別高き満わりく。爰法に任人任傍出仕し給ひ。  
 安房乃夏中より。意軒常恒任花ありと也。或し  
 て社傍藏法ま衣と着し。毎日字乃乃乃備養あり  
 と名。毎年正月一日。天出地久乃修正一七日。社傍一  
 族氏人。祿世社傍。とくく出仕わり。又十二月六  
 日。弘治寺と。後行し。あふとあり。并は三味堂の釈  
 也。三乃任傍十一人。毎日三時勤行。不乃法。金持候を  
 毎月釈也。傳夢賢。其蔭講。延。毎年同法。花八  
 儀。涅槃傳。任生云。法漢任。天口任。わりとあり。  
 是みか人の社乃出法。亦乃こめ。いどりおとあり。  
 然とんくし。あり

大系云之事

外主あ乃傍。津吉。後口位下。津吉。省祿。經國自  
 多。以。そのりく。十二。う。ひん。よ。六。約。乃。大系。源。二。百。任  
 袖。か。た。ら。ん。て。去。一。安。貞。二。年。戊。子。二。月。安。房  
 院。大。和。尚。位。聖。光。法。中。と。囑。して。唱。乃。也。し。  
 小。白。河。女。院。乃。内。院。一。準。して。毎。年。の。法。儀。任  
 書。乃。宿。乃。法。連。して。社。乃。法。系。と。也。し。そ  
 も。つ。ら。と。あり。今。は。さ。う。と。く。孫。生。八。日。一。は  
 け。云。と。社。教。して。法。乃。と。也。し。と。あり。と。あり。と。あり  
 ち。安。貞。乃。社。名。等。今。は。あり。と。あり

津云云之

當ちの應法元年。社主津吉。基。建立し。け  
 る。なり。地。引。乃。河。花。教。津。吉。と。い。ふ。金。札。と。あり。出



一多のりよりくは首 白河帝(奏)のりくは  
 別和歌(和)と在教津(和)とあ(和)下(和)れ  
 一多のりよりくは首 白河帝(奏)のりくは  
 別和歌(和)と在教津(和)とあ(和)下(和)れ  
 一多のりよりくは首 白河帝(奏)のりくは  
 別和歌(和)と在教津(和)とあ(和)下(和)れ

一首乃(首)と係(係)りたる  
 かしふれと包(包)とせ(せ)してあ(あ)乃(乃)浦(浦)の  
 いくよ(い)れありぬ(ぬ)玉(玉)は(は)一(一)由(由)来(来)  
 かくつ(か)げ(げ)る(る)れ(れ)の(の)神(神)と(と)擁(擁)護(護)や(や)あり(あり)く(く)ん(ん)



木下抄

天女浦上不出現あまのうらの上に出ず一まひまひとてとてなまのこなまのことてとて海うみの  
 ありありるるよよとてとて心こころののめめららるるるる知しるる  
 海うみののあありりるるよよとてとて心こころののめめららるる知しるる  
 ととありりるるよよとてとて心こころののめめららるる知しるる  
 ううとてとて心こころののめめららるる知しるる  
 也也とてとて心こころののめめららるる知しるる  
 不ふ知しるるととありりるるよよとてとて心こころののめめららるる知しるる  
 横よこのの僧そうののつつりり

任右おせ、ゆたき二終

付世何方  
 来りぬ  
 子とて  
 北城君

目録

任者相生抄終中三

目錄

伏ふし力ちから美み産うみ之の事こと

康かま福ふく大おほの神かみ并なら大おほの神かみ同どう言ご

面おもて白しろ不ふ背せ珠たま之の事こと

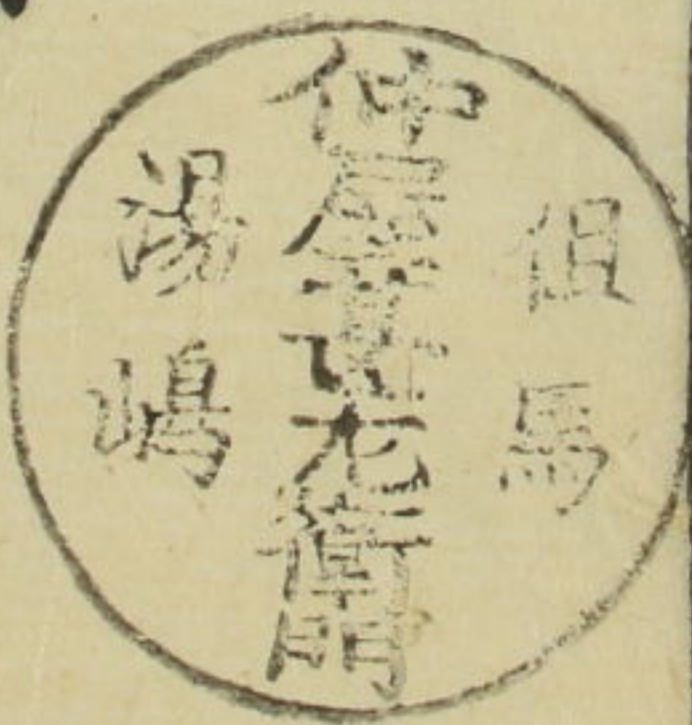
平ひら忌よみ之の神かみ并なら如ごと志し實じつ珠たま

古ふる支し浦うら并なら任に者しや浦うらと名な付つる

任に者しや沖おほ緩ゆる并なら埴は浦うらと名な付つる

八や咫ぢ神かみ并なら紀き伊い呂よ名な付つる

并なら神かみ之の事こと



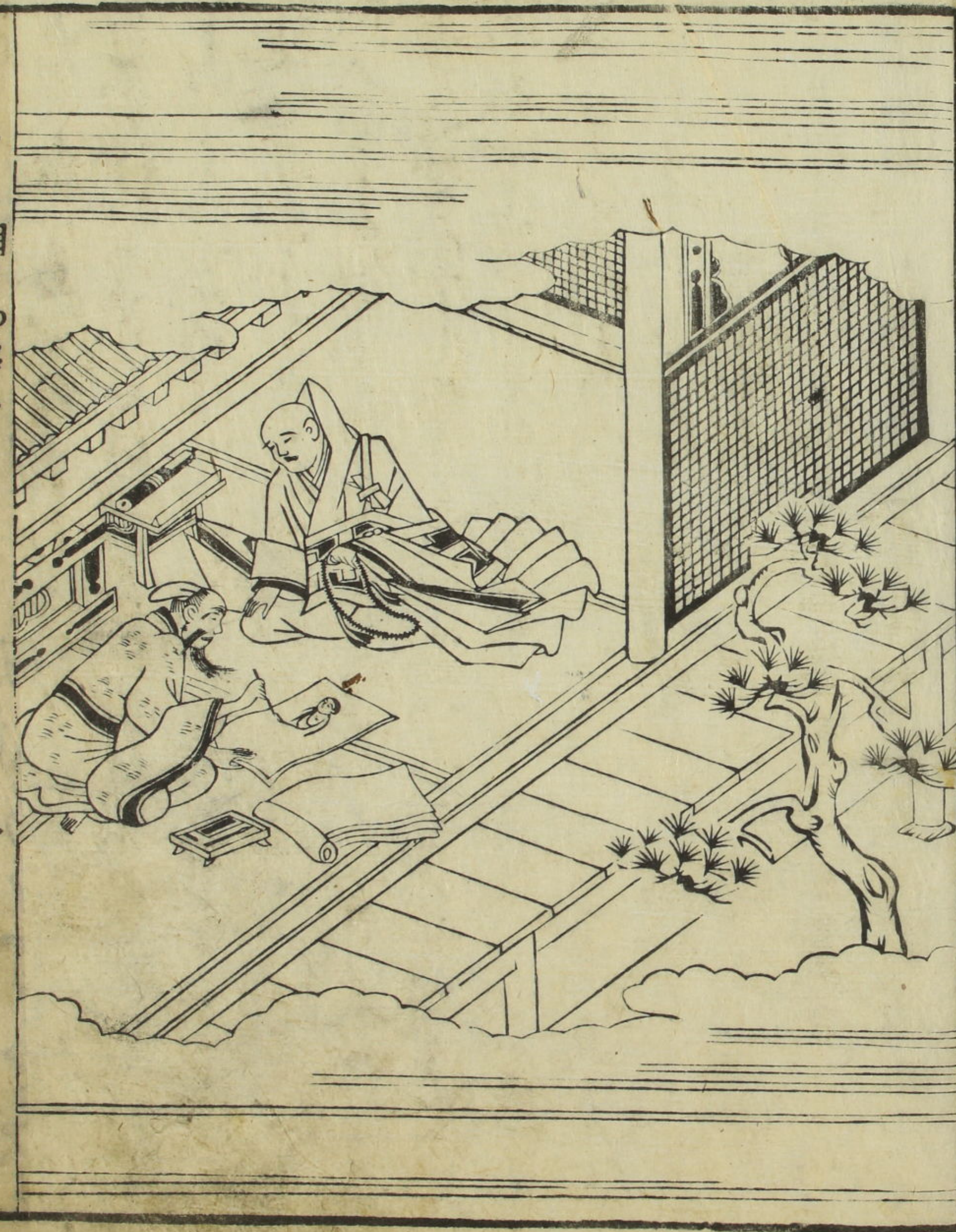
はる相生お終り

一無新 道治輯

伏大カ美産

遠久九年卯月乃以天下疫癘流行と云る  
 一昨夫も乃偽侶横絶一布々る也と云る  
 一い所ちたるとむぬ来りくと云る一此種と種  
 一と此種おりくと後は病も病もと云る一  
 一六人カ美産ありやもあるといふ一疫癘  
 一つふふといふ偽さあるといふ一時一病さあるとい  
 一かいてやんとあり一此偽伴身と云る一  
 一春み紙と云る一此の書乃あつと云ふ一偽の  
 一と書一此偽と云るといふ一書是乃あつと云

是て我の爲と爲しつづの人のそやわらむ  
 とふ我のいつくあひを前乃玉をあたふ高なる  
 とつふれるわといひしてこもむとり信傳の  
 福とあつていふに彼を社中へいさ中の  
 へ入かゝるゝがままかからせくかゝるは  
 あらひひとあつたれおひとるゝも後か  
 乃玉とつるひもるをなるとる人いふゝとや  
 るごめその神乃他がんわりと世乃決り  
 らひ多るゝとていふとくといわつり多る  
 康勝大の神并大の神同音  
 是の神の神復系を中よとて山よとつり  
 ましてよりいふとて世よとて神成の川を



相室物語三

三







相  
四  
三

五



吾神見えしにて家々ぬ神のかりしるさくいに  
 とのりくひく色まろく阿平力雄まじりたせし  
 まりしより柳とりの神神とてまじりし  
 夫乃神いのんさふ神若くしるりまひし  
 時世東園冥りて日月えりるし時徳神  
 ありまの神ありまひしりたての生育あり  
 まりくまのれよまじりし中か天思を命  
 天とてまじりしりまじりし若くしり  
 とるの毛又ま日大の神の知神あり向去神の  
 りのんさふよのあがく天思を神とて  
 神とりのま日地祇と名づくいんともれ  
 城山とりの日本根中乃山法喜まは入澤也

信よまの向原よ神取清産とりの葛城山の  
 りるの法喜まは入澤の神天思を神とて  
 してけるわは山の地祇乃神ま日乃神あり  
 ありまの山と夫乃若くし名づく又神取清産  
 とりの神とてま日乃神取清とてりまひし  
 康徳乃大海の産よ八万初かりまのまあひ  
 しろくは山よまじりしあまのいび山のま  
 生の若くしるの康徳とりの後字の智あま  
 南法法水とての生と利とる根えり又  
 南まま建之乃阿法大師若山まじりま  
 阿と乃若くしまのまはまの南のかま  
 ありしと川法守とあまのまのまのま

といとテ乃秘石とくわかたるとあゆりして一  
 云い乃ありへよわりとやとテ乃秘石とテの  
 井乃真珠洲と目乃内所なり是といく云  
 こと同所といふいん昔来天恩を許す  
 といは法性天祥金といく所とと目大の所  
 とテの地祇乃所とてく所ととあつるの  
 乃内所二面の鏡和合とてとてとてとてと  
 思ふ所とてとて又金乃所なり同名所の  
 いふ言大織冠の天恩を許す今一世乃孫  
 去日大の所是より初物若しとてとてと  
 とてとてと利とてとてとてとてとてと  
 所とてとてとてとてとてとてとてとてと



三

六





白雲の三



白雲の三

わ、後波房端より入りあひくまをせりあひさ  
何せひとりのあつ入は信じてありくび珠のあ  
つらとねままれとありしに相海中より  
てと可とあり程はあぐらうもむくかこりてま  
珠乃を正んさごんえんかひゆりし小げ唐も終  
夫ありも敵のおよ八丈のあ格乃も格あを  
まよしは玉巻どう中へはは玉と安垂しハ前  
カ節ありくあぐらうも後とどりのあまのあつ  
らびとつり。淡海とさうりつては玉の格と  
あぐらとちうあぐらあは今在りともてあ  
慕れは後とどりのあつごとのあひてから  
あつと海へ入しむも海とあつごのあつり布

袴と表した右の脇はカとさうりつては玉の格と  
とごらうよつてと方は船とさうりつては玉の格と  
さうりつては玉の格とさうりつては玉の格と  
て海とさうりつては玉の格とさうりつては玉の格と  
かとさうりつては玉の格とさうりつては玉の格と  
て海とさうりつては玉の格とさうりつては玉の格と  
あさり。淡海とさうりつては玉の格とさうりつては玉の格と  
あつと海へ入しむも海とあつごのあつり布  
く。也然のところはあつごのあつりつては玉の格と  
よてのあつごのあつりつては玉の格と  
よ。也は珠ありあつごのあつりつては玉の格と  
るびの中よりあつごのあつりつては玉の格と



相  
第  
四  
段  
三



相  
第  
四  
段  
三

の歌ふれ中のまげさ何より是よあらんあるの  
 波珠と南の真福とよ安直とる廻りやとと  
 是は新神のりてたつてはあさんとと浪海  
 云乃いつく波珠の生身探如來圖字一の裏  
 あり着縁あるにまわくあがちるは流轉とそ  
 秘がつての新神のりてとそめくあち乃ち積新  
 ととく波珠と権儀一仏法と本具一多と秘法  
 念い多のく新池とかり給つりされよまわく  
 新神のりてたつてはあさんとと浪海  
 あこの珠の真福と金堂探如の像の中より  
 こめさすつるあつてあわり是らり乃のり  
 波眉間の仏の大威冠七星の法を三寸の

新法の探如也所中多よあ給ひて入床と直治  
 法ひし時が大威探如の法を一乃知監と建立  
 探如の法と安直一もんとあつてはあつて  
 安直入床と付多のり浪海と所教と果さん  
 此の真福と建立一丈六乃探如とつりそ  
 眉間と波珠とあ多のり不背の珠は何  
 らは波珠の別表目大の神乃法地なり七聖  
 乃法身と天照太神垂迹とく人五小  
 此法地守と別神の法作らるや平階  
 よ波珠のり考てすつるに而回不背とあ  
 の儀伝るんが平階理字探如とよ小也美  
 薩石といふ物わり是として月なり而回不背と



いふや。そ又いふくろもどくく〜

平屋の神祈并如急実佛事

平屋といふの事。平の地乃の事なり。あつり  
よあつりともあり候なり。天下泰平の地不二の  
系つらゆへよ。天長地久と所としけり。今  
里居として平安城と名づくるも。是らの事  
あり。陰陽よ。平野の事なり。前朱雀  
玄奘。たまたま。白虎と云ふ。後玄奘と云  
ふ。後の屋あり。是れ地祖天乃在るなり。あま  
この地あり。善哉。地祖神あり。白狐の玄奘  
神の出現と云ふ。びりあり。現の。神國の神











月夜舟三



舟中三





後者相生の儀守に

一無形 道法輯

後者八社神来し

至る八社神来し中の一は栢七本松七本榎七本  
栢七本毛刈神乃西神あり立而深紐あるはを  
不と密と一乃神教乃神来し雲あり二の神  
教の神来し栢あり栢のられ面本の云するは  
よりく宮同とまりん空河不洞よりして栢は  
あく茶宮といふとの神教の栢あり本葉に  
いつく夏を常よまきあく不社とあり空の神  
教の栢あり本雅といつ梅井の美者よ似く  
酸く葉大よ理細矣赤るはの枝雲白あり





地のあ方津新乃敷きりて四十八乃弘誓乃徳に  
 してしてしてせまの他力起世乃慈願九品蓮卷の  
 苑あさけらるよひのこす如実相の月とうか  
 へよそ〜〜成終十念引橋をく社種乃ちわ  
 ころの極重の悪人として以て意途のたはま  
 戒びとさうりんや和光回空の結縁のそと先  
 九品蓮卷の来途のとりた善何ぞうさひわ  
 んやその内ちるひいとるかてそゆる

中三社

中三社

中三社の表筒男命は八月神乃中一の里み大  
 多力乃命りておりまよとあり歳八十三万  
 八百歳是別作古大の神あり内ちあひる

中一社

中一社



中二社

中二社



中三社

中三社





是あり。内在地の不空。霜素親るあり。安海の  
いふ。徳化して。施を長く。大士。大慈。大悲。の  
隨よ。その。授。若。樂。の。誓。心。肝。は。結。じ。と  
か。や。十。方。仏。去。り。う。ち。いつ。ま。凡。怨。あ。り。力。と。現。せ。う  
ん。や。神。と。い。ひ。仏。と。い。ひ。為。波。の。ご。と。指。と。い。ひ。実  
と。い。ひ。為。氷。乃。ご。と。あ。り。る。一。天。乃。聖。主。頭。以  
これ。と。神。徳。成。わ。り。百。察。徳。あ。た。り。る。以  
わ。り。と。く。社。じ。ん。よ。ま。ま。て。月。神。雲。密。貴。物。を  
俗。幣。中。吊。と。さ。り。て。礼。ま。す。と。い。ふ。信。心。神。徳。小  
よ。通。じ。る。と。い。ふ。は。神。さん。と。成。務。せ。う。ん。や

才六社 青取大の神

才六社の青取大の神也。是とあり。ら。無。主。乃

是あり。内。地。の。不。空。霜。素。親。る。あり。安。海。の  
い。ふ。徳。化。し。て。施。を。長。く。大。士。大。慈。大。悲。の  
隨。よ。そ。の。授。若。樂。の。誓。心。肝。は。結。じ。と  
か。や。十。方。仏。去。り。う。ち。いつ。ま。凡。怨。あ。り。力。と。現。せ。う  
ん。や。神。と。い。ひ。仏。と。い。ひ。為。波。の。ご。と。指。と。い。ひ。実  
と。い。ひ。為。氷。乃。ご。と。あ。り。る。一。天。乃。聖。主。頭。以  
これ。と。神。徳。成。わ。り。百。察。徳。あ。た。り。る。以  
わ。り。と。く。社。じ。ん。よ。ま。ま。て。月。神。雲。密。貴。物。を  
俗。幣。中。吊。と。さ。り。て。礼。ま。す。と。い。ふ。信。心。神。徳。小  
よ。通。じ。る。と。い。ふ。は。神。さん。と。成。務。せ。う。ん。や

才七社 思安神

才七社の思安の神也。又の產所の神なり







第八社 根中社



第九社 氏氏社



第十社 依羅大



第十一社 長尾社



第十一社 是の船玉乃社と崇めたり并り帆の  
 社也法度ありとありとけし社神の  
 延喜式社名松尾小がてをるるのりべと更  
 いりど小色あはれ又社代長尾かん  
 なるに之社乃社天船概梓船と生と色  
 あり天社七代乃河と乃岩概梓船玉乃  
 尾船社なりは社の清と船よ愛地  
 わりたりあり地社乃とめりるるれより  
 て海中船玉とまのりありとありあり  
 るんぞ船玉と人い船玉のよし社と  
 なるは風波乃難氏凌と後海とと  
 乃社船玉と人い船玉のよし社と

月... 四...



なるまのいしは神なり

才十三社

大海神

才十三社の大海神の天相殿戸取もや大勢  
王の化現るり所本地多々天神御り乃神と  
Pももるうらまの仏法も後乃吾神はうま  
魔障除伏乃と申るりここの素神よとらま  
多小神るれば海取いといげまこととされど  
神回小い長是乃乃の更籍處御書乃係取よ契  
しまたの神本係取るのいよりとをも立取人よ  
かすびにねるるべし

才十四社

大歳神

才十四社の大歳神よとありまの御初大歳

大神初年乃内院よりび東よとるべし  
じつとふありやうくかんくあるべしと信使  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ひくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
て天照を神まらうひとせまひて天くさりまふ  
乃びくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
出され深沃乃まれのこゑ千沼乃ひがし住乃  
いのもふおりまのまのまのまのまのまのまの  
と名づくるやまのり

才十八社

弁主神

才十八社の弁主の神とPももるり所本地  
三世是母乃一切依仏とてく母ととは出取乃ぬ

たる初とあるを候とるゆめくつらるるか  
 く、廣瀨の松とありありありと、徳伝は  
 下よ、新向一あり、まこと、れり、ご上十八社を  
 住し、おり、まこと、卒内院胎産界八葉九  
 為一院花苑の義とるる、内宮乃儀式とる  
 ひる、れ、れ、あり、開口十三所乃神、の、新、美、金、割  
 東三十七、九、ま、ん、じ、つ、依、家、と、能、生、界、と、金  
 胎、支、助、法、湯、不、二、乃、境、る、る、が、い、み、埜、浦、乃、名  
 あり、住、し、十、八、社、開、口、十、三、所、と、て、八、社、を  
 尸、を、も、る、ご、ご、一、十、三、所、乃、神、の、目、を、開、闢、の、下  
 め、し、り、と、ま、ま、り、新、社、あり、開、口、と、は、み、村、や、い、み  
 一、統、あり、ご、ご、の、史、と、一、

分十三社 船玉社



分十三社 大海社



分十四社 大歳社



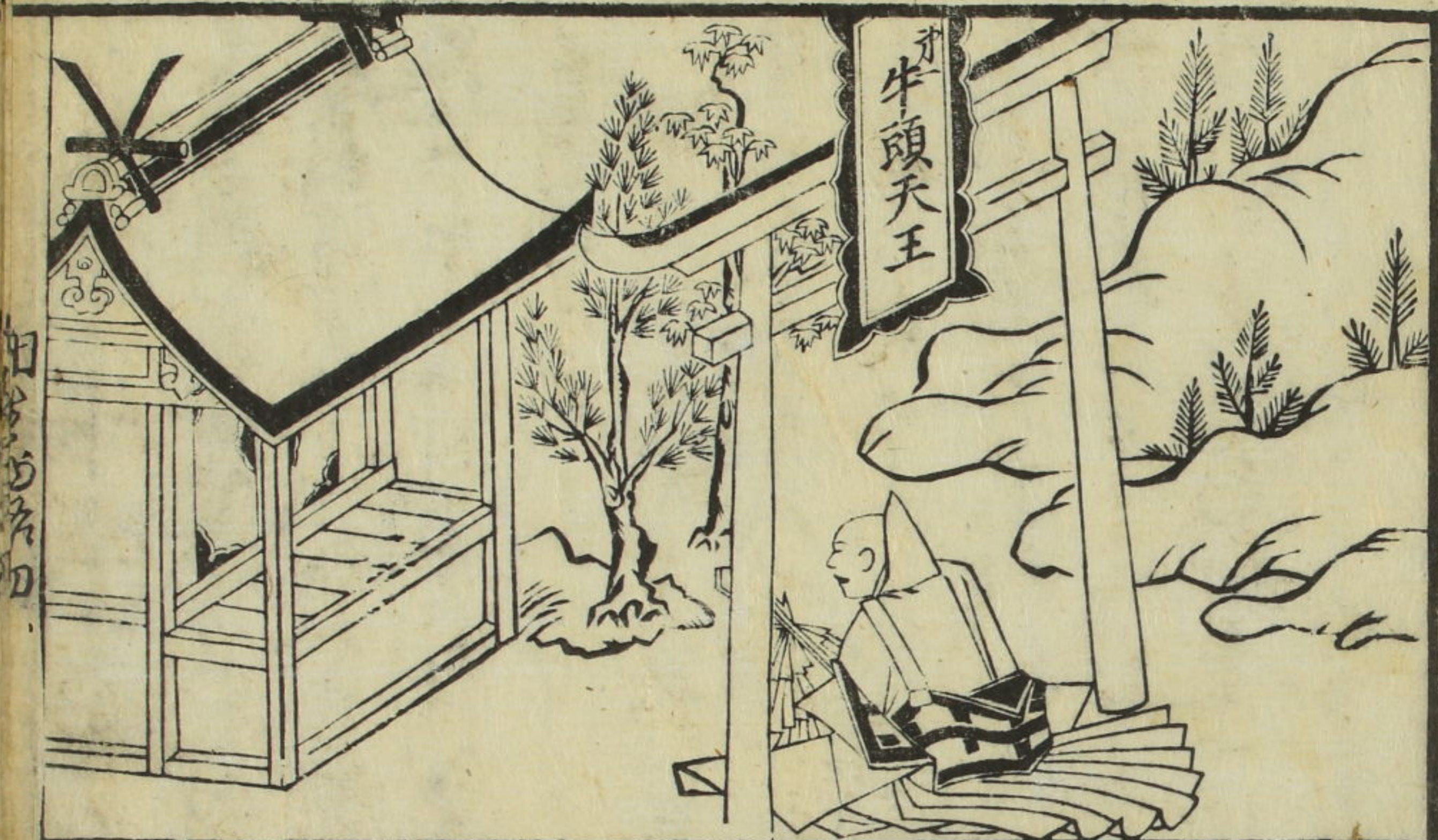
分十八社 無名社



月夜抄

三





ちのくく神のく能生く神来その常御  
 て金剛不壞乃之心あり。怒ふく見とひけ  
 慶教乃信依より神をく見とわさく。馬の  
 大日とま。一稱一礼乃入の吾道乃勝利と獲得と  
 とあり信と一

三村之神 神 才三

才三の生玉天の神 是るの地い陰陽の花え  
 荒神 能生の天祖がえか来らわ能育か  
 て今。藤多神と記と上。成りまらる河は  
 飲天と号し。福寿長壽乃まらる人らに  
 時わらふる神と。一切能生乃か命とばさ  
 あり。能生くまらる小。成り思とくむりて。就

と信ぜど、たのふ帝は、まゝとて、愛符のわし、  
よまらく、意神とらうく、信と力あつた、  
又、まゝあり、美加東、よまじ、  
現し、三障鬼と現し、飢渴神、貪欲神、  
神も、あり、戒じ、  
いん、ん、と、  
現し、  
責し、  
福は、  
の業、  
り、  
わけ、

人のあつと、  
信、  
の、  
あ、  
は、  
あ、

信、  
あ、  
は、  
あ、

信者相生抄終

相、  
四、  
終、

五、  
六、

任者相生物語序

目錄

任者年中御事并糸礼之次第  
 欽々八儀々々  
 欽々六儀々々  
 欽々八病々々  
 八病々々  
 色奇有智  
 無題欽可續事

但馬  
 仲屋光衛門  
 湯嶋

任者相生相終りぬ

一無新 道治輯

任者年中祈り并祭礼と況す

祈りまじりて正月朔日より七日まで  
おとあひの儀式先朔日卯の刻より  
一乃祈り毎々精進を伏せしめあり  
出仕し多し同日國司よりなす幣  
ありて郷土あり毎月一日是と  
なす同日月あはれ月日  
ことあり同日く成り初より  
乃修正祀奉守作は祈り守作  
あり祈り主事あり祈り正社  
仕し多しあり同日二日三日終  
正お目のごとく

用

五

同日六神を去大晦日神饗あり未終  
て今日早稲家分饗より年始乃祝  
とありとや又神饗ありて同日  
く終正日お徳神奉守所乃ほ信人掉飲  
舞も公ありおつく是わりとあり決よ  
しりくは神奉守所乃日六日同終正日お七  
日内儀一乃神饗精を依白る乃神あり  
あり成時終正八日六神一七ヶ月亦又  
へ氣終して七日終分饗より成乃神  
しりく神守乃終正神を以下出仕人爲神  
もとおるごことあり十日夷大社内神の神  
神も男のころとありとら祭の持て神場

と出所神あり十日六日六神饗一乃神  
精を神に出仕十六日所内儀其業乃  
依とあつて一乃神饗の精を奠る一乃神  
饗乃海菜おひされば奠内儀信者大時神  
乃清海よ

伊豫乃國うみ浦まの奠まて色  
まれしをいへん飛まらふとく





目録

日



目録

日

やまや新の家の乃周格されば上人より  
めまより中一と格乃おちのりめよるまを  
色ふあるは惟くりことあらんやされ候目  
抄あも新のいじゆの乃たはあはれいじ  
み乃たはとあり一切乃獲い乃た所道よあひ  
てはあまよびあかたはりり又まの上  
なるのとあひくかあすす申さるゆとゆと  
たりあられけは秋乃乃よとたてい人のよ  
よしは心乃教さるるありて人の心  
ざるとがうた怨ありさるいよりと秋とんは  
いはいしよりい大ゆありとるゆたは

らしてまふた心よまんゆのか  
秋といよりゆの秋一乃秘りありま  
あつた新とらあんでま秋とま  
んまるとらあは人のうちよのせく  
らしりし山野河海と心ひめくせ  
まゆらありまらりとつた意  
と井あしとれいよじとてたありい  
あも新とらめれ又まよあつた  
かまはれとめれ又まよあつた  
んとあひく決りせりてと  
せりてと色終乃七文字と  
は格式とてし時字ハ病と除と

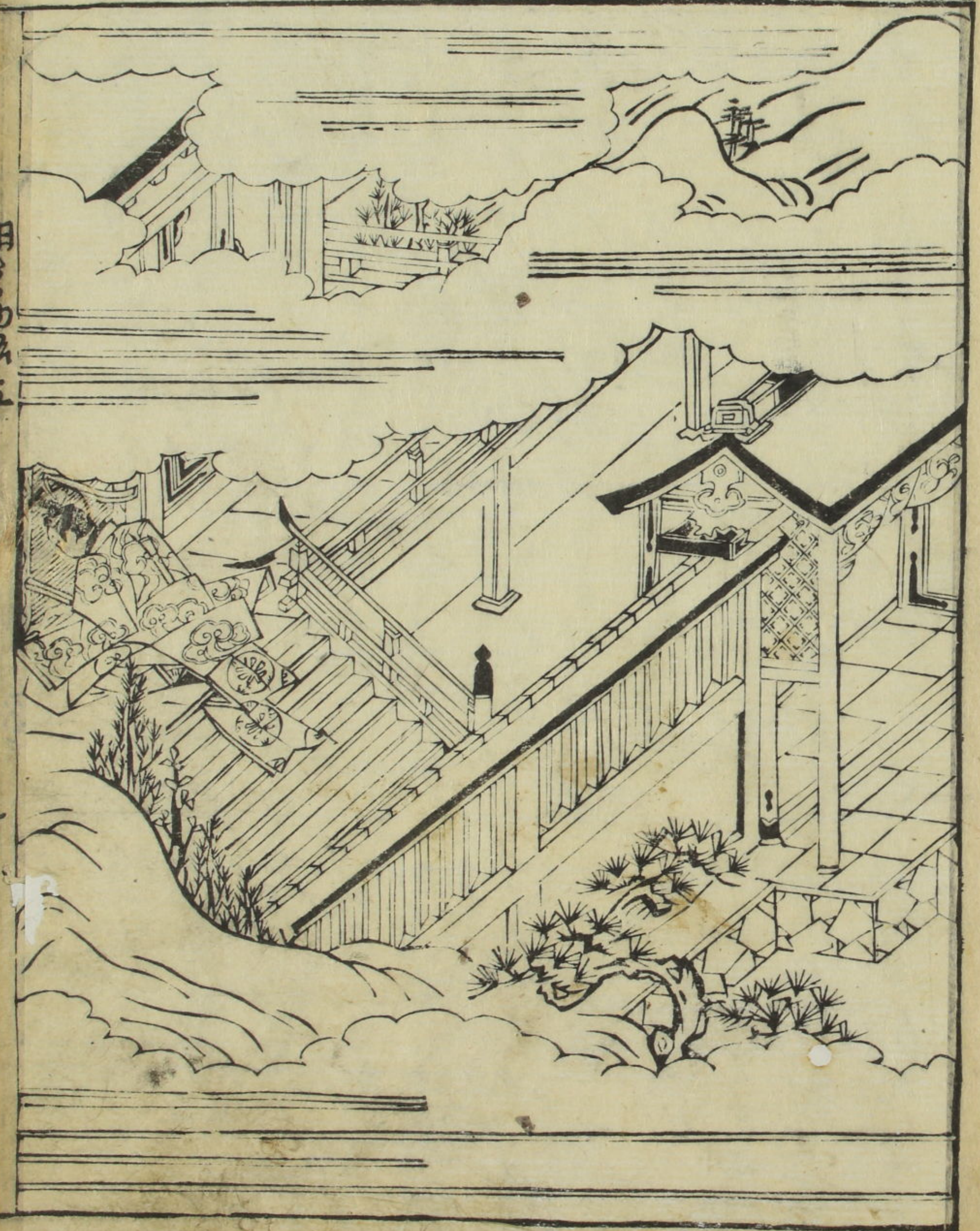








田舎の山



人乃へくよの上下乃何と命く由らありて  
らるあり。才よのあはれおとる人乃るりて  
らる歌乃くしらすとらてあ奇のよあよとく  
べー。才やよのあはれくくくくくくくくく  
や小積りり。これの上下といひはけ印のむ代乃  
歌よあ大素乃りてとらくむむむあり。右は積のふ  
ほくして古人のむ歌乃種もて考らるべし  
先も大よとあらるれあり

知歌 歌可積り

歌とありて歌よむむむむむむむむむむむ  
た歌とありてくくくくくくくくくくくくく  
よあむむむむむむむむむむむむむむむむ

よあり歌よといくあ歌備歌所歌とローく  
と乃ありいありむむむむむむむむむむむ  
よむとありてよむむむむむむむむむむむ  
はあのみあといふ歌よといひれもあのひら  
とよむむむむむむむむむむむむむむむむ  
あのみあまむむむむむむむむむむむむむ  
いあむむむむむむむむむむむむむむむむ  
むむむむむむむむむむむむむむむむむ  
むむむむむむむむむむむむむむむむむ  
又乃月の歌と常の月よむむむむむむむむ  
右乃乃花よ花乃具のむむむむむむむむむ  
いあむむむむむむむむむむむむむむむむ



後乃奇とらふむのこよむいむとて  
 そいあるれとむむととるあり。そくあてい  
 くにありあそ奇ありと懸わく懐われば奇  
 よあはれとむむととるあり。そくあてい  
 との延表帝乃正時古今集撰一多い  
 ゆりつるにむく正統のよむよか  
 正統のよむよか  
 十三年八月十五日の秋中に出現ありて  
 集撰一終る。是よよりて花河とふとあり

延寶六戊午歲  
 河務又兵衛

後若相生物終才又終

但馬

中津長左衛門

湯嶋

才...

壽

子...

會

